



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

〒151-0071 東京都渋谷区本町3-48-21-303
TEL:03-3372-9777 FAX:03-5351-2395
E-mail:info@baj-npo.org

郵便振替口座 00130-1-739924 口座名 ブリッジエーシアジャパン



www.baj-npo.org

BAJで検索!▼

BAJ 🔍



認定特定非営利活動法人 ブリッジ エーシア ジャパン

年次報告書

2022年1月1日~12月31日

2022年度



2021年・2022年の海外活動成果

コロナ禍、さらにミャンマーのクーデターに続く内政の混乱や治安の悪化が続き、2021～2022年の事業は規制や中止などで大きな影響を受けました。ミャンマーの事業を進めるための助成金申請もことごとく不採択となるなか、募金キャンペーンやクラウドファンディングなどを進め、資金確保に努めました。このページでは2年間の事業に限っていますのでご了承ください。

in Myanmar

ミャンマー事業

ミャンマー・マウンドー事務所

事業名	内容	2021年	2022年
インフラ整備事業	カルバート建設	4本	7本
	アクセス道路建設	4本	2本
	ソーラーパネル設置	62箇所	—
	橋・道路建設	4本	2本
公的施設建設事業	小・中学校修繕	1校	—
	公的施設建設	10棟	—
	貯水池修繕	5箇所	—
	井戸建設修繕	4本	1本
燃料のろ過事業(フィルトレーション)	ガソリン	10,775ガロン	11,423ガロン
	プレミアムディーゼル	6,100ガロン	12,319ガロン
	ディーゼル	800ガロン	1,600ガロン
	ろ過時間	20時間	24時間
女性のための裁縫訓練事業	参加人数	—	20名
車両などの修理・整備事業	台数	569台	180台
	車両整備時間	2,692時間	1,033時間
	船外機修理時間	1,299時間	884時間

ミャンマー・ヤンゴン事務所

Book&Toy ミニライブラリー事業	本とおもちゃの寄贈	—	5施設
---------------------	-----------	---	-----

in Vietnam

ベトナム事業

事業名	項目	2021年	2022年
環境教育事業	授業実施回数	24回	20回
	授業参加人数	622名	576名
教育支援事業(奨学金)	授与者数	55名	70名
	金額	@30万ドン×20名=600万ドン @50万ドン×35名=1750万ドン	@30万ドン×20名=600万ドン @50万ドン×50名=2500万ドン
農畜産物の販路拡大(直売所運営)	売上	2,417,575,254ドン≒11,362,604円	1,705,151,316ドン≒9,548,847円
	純利益	34,848,524ドン≒163,788円	24,492,643ドン≒137,159円
	利益率	1.39%	1.03%
エコツーリズム事業(オンライン)	開催回数	3件(キャンセル)	2件
	参加人数	約80名(キャンセル)	37名
サポートチーム活動(オンライン)	延べ開催数	11回	14回
	延べ参加者数	29名	39名

ごあいさつ

コロナ禍も一段落し、2022年のBAJ活動報告を皆様にお届けすることができますこと、あらためて心より感謝申し上げます。

NGOの活動は市民社会の多様性にかかわる活動であり、「共助」が基本にあると考えます。また寄付やボランティアを通じて個人の価値観や考えを発揮できる分野でもあります。その内容は、環境、人権、難民、気候変動など国境を超える問題から、ジェンダー、人種、宗教、障がい者など、個人の尊厳にかかわる問題までふくまれ、市民として対応しようとする活動です。

BAJはベトナム戦争終結後の復興支援を始めた創設者の活動から始まり、1993年に海外支援の任意団体として創立。ベトナム、ミャンマー、スリランカ、さらに東日本大震災では岩手県で支援活動を進めることができました。この間皆様のご支援ご協力を得て、2023年は創立30周年を迎えます。これまでさまざまにご支援いただいた皆様に、あらためて心より御礼を申し上げます。

2022年はBAJにとって試練と挑戦の年となりました。ミャンマーで2021年に勃発した国軍によるクーデターによりNGO活動はさまざまな制約を受けました。ミャンマーで活動するNGOはMOU(活動認可の覚書)およびINGO登録が必要です。BAJは更新の申請中であつたにもかかわらず無視されるなどが重なり、新規事業に着手できません。また日本では活動資金調達のための助成金申請が、ミャンマー国内の不安定要素を理由にことごとく不採択となりました。状況はますます激化していましたが、ラカイン州マウンドー地区は比較的安定した状態を保っていたので、事業活動のレベルを下げ、ラカイン州認可の事業提案を視野に検討し、小規模の目立た

ない活動として実施実績のある女性対象の裁縫訓練を計画して交渉を継続しました。その結果ようやく許可があり、6月の裁縫訓練事業の再開となり、現在に至っています。

ベトナムのフエでは、2、3月の感染拡大により環境教育授業の実施ができない期間がありましたが、オンラインなど工夫して進め、とくに日本の中高生との交流は子どもたちに好評でした。

夏ごろからコロナ感染が落ちついて入国制限が解かれ、2年ぶりに現地出張が可能となり、23年以降のBAJ活動3か年計画についてフエ市当局の承認を得ました。またフエの有機農家訪問を、オンラインによるスタディーツアーとして実施し、日本の大学生と交流しました。BAJが運営する直売所では初めてベトナムの現地教育機関の訪問を受け入れ、今後はベトナムでの広がりに期待したいと考えています。また9、10月は洪水の影響を受けながらも、現地職員の努力で直売所の運営は安定しています。

東京本部では資金調達として、募金キャンペーンやクラウドファンディングに挑戦し、努力の甲斐あって目標を上回る金額を獲得できました。またコロナ禍によるオンラインでの事業運営のノウハウが蓄積でき、今後の事業活動実践に資することができました。



認定特定非営利活動法人
ブリッジ エーシア ジャパン
代表 根本 悦子

BAJの4つの使命

The Four Commitments of BAJ

1	2	3	4
技術習得や 能力強化の 機会を提供します	収入向上を 支援します	地域発展 のための 環境基盤の 整備を進めます	環境を守り 啓発活動を 進めます



海外支援活動 ミャンマーでの活動

クーデターから1年を経過し治安情勢は激化しています。とくにNGOに対する制限は厳しさを増し、登録手続きや移動制限、送金手続き、銀行引き出しの制限などこれまでにない苦戦を強いられた1年となりました。

とくに「支援ニーズ即応事業」は2月以降活動許可が得られず、計画していた6本の井戸建設は着手したものの、当局による活動停止の通達により完成に至りませんでした。年間を通して活動を維持できたのは「車両等機械類の整備事業」で、これは当局の車両整備なども含まれていたのが継続できた理由と思われます。

職員の士気を高めるためにも新規事業開拓が必要と考え、カウンターパートの変更もふくめ検討しましたが、ミャンマー側の対応も一貫していません。幸いマウンドーの治安は比較的安定しているので、ラカイン州レベル認可の目立たない小規模な活動として、実績のある女性対象の裁縫訓練事業の提案をおこない、4月に許可を得ることができました。5年ぶりの再開に職員は喜んで準備を進め、20名の生徒を集めて6月より訓練コースを再開しました。

しかし9月に入ってマウンドー地域の治安悪化を理由に、国連やNGO活動に対する全面禁止の通達があり、中断となりました。継続の可能性を検討した結果、生徒の家を講師が訪問して裁縫指導を進める訪問型の訓練を考え、11月末より再開させました。

ヤンゴン事務所は2年ぶりにBook & Toyミニライブラリー事業を復活させ、目立たない工夫として郊外の孤児院や

寺子屋学校など民間の児童養護施設5か所への寄贈をおこないました。地域の現場で奮闘する教師、僧侶、親や、困難な環境で学ぶ子どもたちの笑顔に触れて励まされました。今後も継続していく所存です。

BAJはクーデター以降、ミャンマーのNGO活動に必要なINGO登録や、政府機関とのMOU(覚書)の有効期限が切れています。10月末に当局より新たな団体登録法が示されましたが、申請フォームが示されておらず、NGOや関係機関の混乱が続いています。日本大使館やミャンマーで活動する日本NGOネットワーク(JNN)と連携しながら、活動の安定を図るための情報収集と共有を進めています。こうした状況のなかでBAJは、国境省ナタラ(少数民族対策局)とのMOU取得が進まないため、村落開発局によるMOU取得の可能性を探って交渉を進め、さらに団体登録の準備も進めています。長引く紛争で経済の混乱も継続しており、NGOにとっては海外送金や両替など為替にかかわる銀行機能が厳しい統制下にあり、2023年は海外送金の迅速な受取りに懸念がある状況です。

1 ラカイン州の活動

悪化する治安のなか遅れる活動の進捗

2022年のラカイン州の治安状況は、州北部および隣州パレワ郡の各所で局地的に短期間の戦闘と、関係者の拘束が繰り返され、民間人や避難民に死傷者が出ました。8月以降、国軍は村落部に潜伏するアラカン軍(AA)民兵の移動や食料医薬品の供給を断つため陸路や水路を遮断したため村や避難民キャンプの生活が困難な状況に加え、砲撃や空爆で避難民が増え続けています。

9月に国軍統制下の当局より、NGOに対してラカイン州北部8郡で活動するすべてのNGO活動の停止措置が年度末まで続きました。BAJはMOUがないことを理由に8月以降は移動許可が下りず、主にマウンドー事務所敷地内で進めている「車両等機械類整備事業」と、12月より再開した市内の裁縫訓練参加者宅を訪問しておこなう「女性の能力開発活動」を進めました。

1.ラカイン州地域開発事業

資金：国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)

①車両など機械類の整備

マウンドーで活動するUNHCRおよび国際機関やNGOが使用する車両、ボートなどの修理と整備を進めました。年間の修理とメンテナンスの回数は465回、燃料のろ過作業は25,333ガロン(ドラム缶586本)となり、昨年より修理は減少し、ろ過量は増加しました。



②支援ニーズ即応事業

コミュニティーインフラ整備事業は現地の雇用を生みながら進めました。前年度完成予定の2村の道路建設を完了し、未使用資材保管のため敷地内倉庫を拡張して立替えました。

	郡名	事業村	内容	着工	完了(進捗)
1	マウンドー	(Du) Nyaung Pin Gy村	連絡道路建設	2021/4/25	2022/1/16
2	ブティダウン	Ah Lei Chaung村	連絡道路建設	2021/5/1	2022/1/30

2月以降は治安悪化で活動許可が得られず、年度末まで着手できませんでした。

	郡名	事業村	内容	着工	完了(進捗)	備考
1a	マウンドー	Min Ga Lar Ahr Sheik Kyar村	井戸掘削3基	2021/4/23	(25%)	2021年6月中断
1b		Ah Bu Gyar村	井戸掘削2基	2021/6/1	(10%)	
2		Kyauk Hlay Kar村	学校建設	2021/6/1	—	2021年度分継承
3		Nyaung Chaung村	井戸掘削2基	—	—	2021年度分継承
4		Pa Din村	井戸掘削1基	—	—	
5		Kyee Kan Pyin村	井戸掘削1基	—	—	
6	ブティダウン	Da Pyu Chaung村	井戸掘削1基	—	—	2021年度資材調達済

③井戸掘削建設

UNHCRより事務所敷地内に1基の井戸掘削建設を実施しました。

2.学校建設を通じたコミュニティー開発事業

資金：日本財団

2021年4月末に完了しましたが財団監査部による監査のため資機材等はマウンドー事務所内で保管しています。

3.裁縫訓練を通じた女性の能力開発事業

資金：自己資金

閉塞感のあるミャンマーで職員の士気を高めるためにも、実施実績のある裁縫訓練再開を決め、ラカイン州政府レベルと交渉し6月より開始しました。仏教徒のラカイン、ムスリム、ヒンドゥの女性20名が、基礎コース45日、応用コース60日の計105日間で、裁縫技術のほか疾病予防、栄養学、母子保健、衛生知識などを学ぶ計画です。

6月に基礎コースを開講し、全員が8月の応用コースに進級、しかし9月19日以降、治安悪化による当局の規制で事務所に訓練生を集めることが禁止されました。規制解除の見込みが立たないなか専門家より訪問型訓練の提案を受け、参加可能な16人を対象に裁縫訓練を11月28日より再開、1~3名が集まった訓練生宅に週1回講師が出向く訪問形式による訓練となりました。

4.新規事業の開拓

①学校建設を通じた教育環境整備事業

新たに教育省とのMOU締結を目指し、外務省の日本NGO連携無償資金協力の助成申請をおこない、一方事業形成のための情報収集を4月からおこない、4月からマウンドー郡とプティダウン郡内の候補校選択調整を教育局とおこない、3年で9つの実施校を決定しました。東京事務所は7月に事前申請書類を外務省に提出していたものの10月に不採択の通知を受け、さらに活動許可証となる当局のMOUがないため事業実施に至りませんでした。



②Book & Toy ミニライブラリー事業

移動許可不要で治安の懸念が低いマウンドー郡とプティダウン郡の12校の小中学校を選び、教育環境改善を目的に図書と知育情操玩具の寄贈事業を立案して助成財団に申請したところ、11月に不採択となりました。

5.マウンドー事務所の運営

①総務・管理

人事では、年度末現在で職員50名、うち井戸掘削技師1名、裁縫能力開発要員2名の女性、男性ドライバー1名を採用しました。

②職員の研修

職員の業務能力向上と、BAJへの愛着心や帰属意識の維持醸成のため実施しました。

日程	名前	役職	研修内容	場所
4/24 - 3/5	Min Lwin	シニア・エンジニア	地質調査電気探査(BAJ)	モン州 モーラマイン
	Soe Lin Naing	エンジニア		
	Aung Aung	シニア・スーパーバイザー		
	Myo Zaw	スーパーバイザー		
10/19 - 10/21	Ye Aung	プロジェクト・コーディネータ	UNHCR事業の調達・購買業務 (UNHCR)	ヤンゴン



2 ヤンゴン事務所

1.INGO登録および新規事業準備関連

東京本部はINGO登録の更新手続きを2020年におこないましたが回答がなく有効期限が切れた状態でした。2022年10月末、突然新たな団体登録法が施行されあらためて申請する必要がありますが申請フォームも示されず、国際機関やBAJなど各団体は情報収集と共有を進めました。外貨預金のミャンマー・チャットへの強制兌換などの通達で企業が撤退するなか、在ミャンマー日本大使館は草の根の支援活動が日本とミャンマーをつなぎとめるポイントと認識しており、日本のNGOを積極的に支える方針が示され、団体登録法への対応など駐ミャンマー日本大使館の助力に期待しました。

一方MOUがないことでUHNCRとのパートナー事業に影響が出始め、早期に解消すべく国境省NATALAとのMOU締結の交渉を開始しました。10月にNATARAからシャン州南部の事業を打診され、調査を進めていく過程で多額の事業予算を要求され、交渉は暗礁に乗り上げました。

12月、中央乾燥地域の水供給事業のカウンターパートだった村落開発局に対し、MOUとINGO登録申請について水面下で相談した結果、同地域の元BAJ職員が立ち上げた井戸修繕のローカルグループ(NWSG)とパートナーシップを結ぶ事業形態を検討し、村落開発局とMOUまたはLOA(MOUよりも金額が少ない覚書)を結ぶべく手続き書類の作成を進めました。

2.Book & Toyミニライブラリー事業

2月、図書寄贈活動をヤンゴン市内で小規模に再開すべく、活動許可の得やすい孤児院や寺子屋学校を中心に5校をリストアップし、6月に養護施設マーシーガーデンへの寄贈を皮切りに、並行して施設訪問調査を実施してヤンゴン郊外の4施設に寄贈しました。

実施日	施設名	場所	種別	裨益者
5/26	マーシーガーデン	シュエビタ郡	孤児院	小学生～高校生35人
8/24	ニューホープ・チルドレンホーム	タイェチャン村	孤児院	紛争孤児など15人
9/16	チュードウ・カレンバプティスト教会	チュードウ村	教会の教育プログラム	通学困難者など大多数の村の児童生徒
10/14	サブタウン・カレンバプティスト教会	サブタウン村	教会の教育プログラム	村の児童生徒135人
12/16	メイユーウォンタ僧院学校	シュエビタ郡	寺子屋学校	通学困難者などの地域の子供たち531人



3.ネットワーク

ミャンマーで活動する日本のNGOネットワークJNN(Japan NGO Network:)は日本大使館と安全連絡会議の取りまとめをおこないました。不安定化するミャンマー情勢にあって、治安、行政手続き、経済活動、支援活動などの貴重な情報収集・共有の場として機能しています。

4.管理・労務関連

1月より各事務所の現地職員対象にHRパフォーマンスシート(人材育成管理表)を導入し、3か月ごとに各リーダーが直属部下の目標設定を共有する仕組みを運用など、現地職員の能力強化の一環としてオンラインによる情報共有セッションをおこないました。

またPSEA(性的搾取虐待の保護)に関する指針を作成し、加えて不正・腐敗防止に関する行動計画を作成し、3月に調達業者の評価シートを作成しました。各種研修実績は以下。

実施日	タイトル	主宰/参加	内容
2/4	本部事務所の活動紹介	TYO/YGN	本部機能、資金調達など
3/3	PSEAポリシーとレポート体制	YGN/YGN, MGD	PSEAに関する指針の共有
3/28	不正防止の啓発研修	YGN/YGN, MGD	不正防止に関する意識啓発
3/29	腐敗防止ポリシーとレポート体制	YGN/YGN, MGD	腐敗防止の連絡体制確認
4/28	調達部門の活動紹介	YGN/YGN, MGD	物資調達のガイドラインや手順の確認
5/12 - 13	GPサーベイ訓練の成果	MGD/YGN, MGD	地質調査の方法、応用その他の共有
5/18	スタッフの保険について	YGN/YGN, MGD	保険会社の変更と契約内容確認
5/19	マウンドー会計業務紹介	MGD/YGN, TYO	マウンドーの会計業務の報告とレビュー
5/30	マウンドー調達業務紹介	MGD/YGN, MGD	マウンドーの調達業務の報告とレビュー
6/6	会計ガイドラインの更新	YGN/YGN, MGD	会計ガイドラインの修正と更新
7/6	アドミンガイドラインの更新	YGN/YGN, MGD	アドミンガイドラインの修正と更新
7/7 - 8	グーグルの活用方法	YGN/YGN, MGD	業務に役立つテクニックの情報共有

*TYO：東京事務所 YGN：ヤンゴン事務所 MGD：マウンドー事務所

10月にはマウンドー事務所とヤンゴン事務所に在籍する「6年以上勤続」の勤続表彰対象者13名に対し、表彰状データと記念品を贈呈しました。

5.新型コロナウイルスの感染状況

2022年は2回の感染ピークがあり、1日当たりの陽性者は3,000人余と2021年比で半減、死者は5人程度と1000分の1以下という当局の見解でした。BAJ 現地スタッフの86%が1回目のピーク時に風邪の症状を呈しましたが、軽症で済みました。4月以降は、商用と観光のオンライン・アライバルビザについては、ワクチン接種が陰性証明で入国が可能と規制が緩和されています。





海外支援活動 ベトナムでの活動

ベトナム事業では東京事務所と定期的にオンライン会議を通じて事業を進めており、現地職員が主体となって活動を進めています。日本側ではボランティアをふくむベトナム事業サポートチームが現地職員からの提案などに応える活動をおこなっています。

2022年の夏頃に新型コロナの感染拡大が落ち着きを見せ、海外からの渡航も5月時点で制限解除となりました。6月にNGO登録の更新期限に合わせて、カウンターパートであるフエ市人民委員会との会合を念頭に3年ぶりに日本人職員が出張し、次期3か年計画について当局からの了承を得て、申請手続きを進めることができました。

環境教育事業では、コロナによる規制が継続している学校もありましたが、日本企業の寄贈によるリサイクル定規を使った授業をおこないました。またアジ子サポーターへのサンクスレターや工作物の作成では対面による教室での実施が叶いました。2月～3月にかけてはフエ市の各地域で学校関係者の感染拡大があり、BAJの活動対象校3校のうち2校で活動が実施できませんでしたが3月末からは3校ともに対面授業再開となり、通常の活動に戻りました。4月には名古屋の中高生グループとフエの教室をオンラインでつなぎ、お互いの文化などを紹介する交流活動をおこない、子どもたちからは活発な質問が出て、楽しい交流会となりました。

夏休みの活動は、ここ数年できなかった課外活動を企画し、



子どもたちと一緒にフエの伝統的な文化が残る村を訪問しました。また9月の始業式にあわせて奨学金の授与式をおこないました。

農家支援事業では、エコツーリズム事業として生産者訪問ツアーや、2月には旅行会社と組んで日本の学生とのオンライン研修をおこない、農家のインタビューや畑を使ったリモート・野菜収穫ゲームなどをおこないました。直売所の運営を通じた小規模農家の収入向上支援活動では、生産者訪問ツアーの申し出が地元の英語スクールからあり、6月に初めて地域内の私立教育機関の訪問受入れをおこないました。

9月、10月にフエでは洪水があったものの、スタッフたちの経営努力もあり、直売所の売上は安定して推移しています。また12月には地元の「詰め替えプロジェクト」に参加し、直売所のディスプレイやプラスチックの容器や籠をガラス瓶や竹かごに変え、よりエコロジーな販売方法を導入しました。

1 環境教育事業

資金：輝けアジアの子ども基金、その他ベトナム寄付

フエ市内の3校で、ベトナムの教育方針にそった「生きる力を伸ばすための活動」の一部として、授業を実施しました。トウイスワン小学校の授業ではコロナ感染拡大を考慮し、BAJからYouTubeに動画投稿し、学校側はホームページで受けることで、オンライン授業を進めました。2～3月は再びコロナ感染が拡大して対面授業が難しくなり、通常授業優先のためBAJ授業のオンライン実施が難しくなり休止としましたが3月末以降は対面での授業が可能となりました。

4月1日、8日、18日の授業は、日本の名古屋市の高校生グループ「どえりゃあWings」の高校生とフエの教室をオンラインでつなぎ、日本文化と環境問題に関するクイズとインタビューの交流授業を実施しました。6月以降は課外活動としてThanh Tien村、Sinh村、Nguyen Chi Dieu博物館、Phuoc Tich村を見学しました。授業内容は以下の通り。

実施日	学校	学年	人数	テーマ
1月 14日	ファムクアンアイ中学校	6年生～9年生	20	プラスチック・リサイクルとリサイクル定規寄贈
1月 17日	トウイスワン小学校	4年生～5年生	31	プラスチック・リサイクルとリサイクル定規寄贈(オンライン)
2月 23日	ラムモンクアン中学校	6年生～8年生	—	マスクを使って工作してみよう
4月 1日	ラムモンクアン中学校	7年生～8年生	24	名古屋の中高生との文化交流
4月 8日	ファムクアンアイ中学校	6年生	40	名古屋の中高生との文化交流
4月 18日	トウイスワン小学校	5年生	40	名古屋の中高生との文化交流
5月 11日	ラムモンクアン中学校	6年生～8年生	18	いろいろな気象について学ぼう
5月 20日	ファムクアンアイ中学校	6年生～9年生	5	いろいろな気象について学ぼう
6月 25日	ラムモンクアン中学校	6年生～8年生	30	課外活動:地域の伝統文化を訪ねる(版画、紙の花、博物館見学など)
7月 25日	ファムクアンアイ中学校	6年生～9年生	28	課外活動:地域の伝統文化を訪ねる(陶器作成、伝統的な遊び体験など)
8月 17日	ラムモンクアン中学校	6年生～8年生	22	夏休みの思い出を絵に描こう
9月 15日	ファムクアンアイ中学校	6年生～9年生	20	奇跡の水(水を知ろう!)
9月 21日	トウイスワン小学校	4年生	39	奇跡の水(水を知ろう!)
10月 4日	トウイスワン小学校	5年生	38	奇跡の水(水を知ろう!)
10月 11日	ラムモンクアン中学校	6年生～8年生	18	奇跡の水(水を知ろう!)
10月 20日	ラムモンクアン中学校	7年生～9年生	26	紙のリサイクル工作
10月 28日	トウイスワン小学校	4年生～5年生	70	紙のリサイクル工作
11月 4日	ファムクアンアイ中学校	6年生～8年生	24	紙のリサイクル工作
11月 17日	ラムモンクアン中学校	7年生～9年生	21	サンクスレターを書こう
11月 23日	トウイスワン小学校	4年生～5年生	52	サンクスレターを書こう



2 教育支援

資金：輝けアジアの子ども基金

皆さまにご支援いただいている「輝けアジアの子ども基金」による教育支援事業では、学校側と相談して対象者を決定し、1月と9月に奨学金を授与しました。親の失業や病気など家庭の経済状況に困難を抱える児童生徒を対象にしました。また授与の際には校長先生の言葉などいただき、授与式を実施しています。

実施状況は以下の通りです。

日付	対象校	学年	人数	授与額
1月25日	トウイスワン小学校	1～5年生	20名	300,000 VND/人
1月26日	ファムクアンアイ中学校	1～8年生	15名	500,000 VND/人
9月5日	ラムモンクアン中学校	1～9年生	20名	500,000 VND/人
9月5日	ファムクアンアイ中学校	6～9年生	15名	500,000 VND/人



3 畜産業経営強化支援事業

資金：自己資金

1. バイオガスダイジェスター(BD)の管理

BAJは過去に設置したBDについて、農家やフエ市経済部からの問合せに対し、修理や維持管理のサポートを担当していますが、2022年度は問合せがありませんでした。

2. 農畜産物の販路拡大

2019年にJICA草の根事業の完了をもって直売所1号店を農家グループが引き継ぎ、2号店はBAJが引継いで店名を「フエ日本式農家の店」としてリニューアルオープンしました。

2022年もコロナの影響による収益低下の対処として、オンライン販売、商品の多様化、無料配送サービス、広報宣伝など努力を継続しました。1月は旧正月準備で売り上げが伸び、販売員賞などに充てることができましたが、休日が続く旧正月の影響やコロナ感染拡大などでその後の売り上げは伸びませんでした。さらに9月、10月と豪雨と洪水の被害で野菜不足となるも売上と利益は伸びました。11月に地元農業関係者の呼びかけで「詰め替えプロジェクト」に参加、「詰め替えステーション」の看板を掲げて店内をリニューアルし、開始式は新聞やテレビなどで報道されました。

2022年の直売所の経営状況は以下の通り。

期間	売上(VND)	純利益(VND)	利益率(%)
1月	245,120,991	2,177,481	0.9
2月	101,969,940	-1,706,000	-1.7
3月	134,774,400	2,583,550	1.9
4月	138,243,710	3,272,710	2.4
5月	111,879,330	2,177,481	-2.3
6月	125,510,863	1,163,363	0.9
7月	125,178,740	2,016,220	1.6
8月	135,758,939	1,280,839	0.9
9月	151,632,580	4,048,460	2.7
10月	143,041,142	3,023,062	2.1
11月	142,771,240	1,346,640	0.9
12月	149,269,441	3,108,837	2.1

(100,000VND=560円)



3. 直営トウイビユ畑の管理

BAJが運営するトウイビユ畑では、1月はスイカ、キュウリなどを育成しましたが、4月の大雨で農場の清掃が必要となり、栽培をやり直す事態となりました。5月はほうれん草、レタス、唐辛子、かぼちゃ、落花生などを育成。畑管理人の退職により後任が見つからず、11月にやっと1名を採用しました。トウイビユ畑のほか、直売所に出荷する農家メンバーの畑を定期的に訪問し、栽培や収穫状況を確認しました。

4 エコツーリズム事業

資金：自己資金

2021年はオンライン・スタディツアーを3回実施し、2022年も引き続き2月に旅行会社と協働で、学習院女子大学のゼミ生向けオンライン・スタディツアーを実施、農家を訪問して畑の農作物に関するクイズや農家へのインタビューなどをおこないました。6月はフエ市内の英語教育センター(AMA)の農家訪問を受け入れ、東京から出張で現地入りしていた事務局長がBAJの活動紹介をおこないました。また8月は愛知県のNPO法人Social Goodの2名を現地で受け入れました。

日時	タイトル	参加者数	備考
2月26日(土) 10:00~12:00	学習院女子大ゼミベトナム・オンラインツアー	スタッフ含め17名	費用などはPITIに請求
6月24日(金) 7:30~12:00	AMAセンター農家訪問ツアー	生徒15人 / 教師5人	費用などはAMAセンターに請求



5 その他

1. NGO登録およびフエ市経済部、人民委員会との会議関連

5月にNGO登録更新と次期活動計画に向けフエ市経済部と検討した結果、関係者を集めての活動報告と次期計画を共有する会議の提案があり、6月にフエ市人民委員会で会議を開催し、次期3か年計画が了承されました。会議の参加者は下の通り。

日付	主な参加者(フエ市側)	内容
6月28日(火)	フエ市副市長 フエ市経済部部長 トゥイビュウ地区長 フォンロン地区長 トゥイスアン小学校校長 フエ国際協力センター長 フエ文化情報教育局長 他	・2019年から2022年の活動報告 ・2022年から2024年の3か年計画の説明 ・次期カウンターパート先の相談と確認 ・次期活動計画の承認



2. 東京サポートメンバーとのオンライン会議

東京事務所のベトナム・ボランティア・サポートチームは、BAJフエ事務所とオンライン会議を実施し、活動に関する情報共有や環境に関する授業内容検討、エコツーリズム開催に向けてのアイデアなど検討会を実施しました。2022年の実施は下の通り。

実施日	参加人数	内容
1月 8日	2名	フエ職員 個人面談
1月15日	3名	どえりゃあWings授業内容打合せ
2月18日	4名	次期3か年計画書準備
2月25日	4名	次期3か年計画書準備
3月30日	4名	次期3か年計画および登録書類の準備
5月14日	1名	フエ職員 ドン氏面談 人事相談
6月 3日	2名	次期3か年計画スライド打合せ
6月10日	1名	次期3か年計画スライド打合せ
7月23日	3名	どえりゃあWings交流授業打合せ
9月 3日	2名	どえりゃあWings交流授業打合せ(東京のみ)
9月17日	2名	どえりゃあWings交流授業打合せ(東京のみ)
10月 3日	2名	どえりゃあWings交流授業打合せ(東京のみ)
10月 8日	3名	渥美さんオンライン料理教室企画プレゼン(フエとオンライン)
12月23日	3名	料理イベント準備打合せ(フエとオンライン)



3. 新石事務局長、フエ出張日程

フエ出張日程は下記の通り。

実施日	内容
6月23日	夜フエ着
6月24日	AMAセンター農家訪問ツアー同行
6月25日	ラムモンクアン中学課外活動同行、フエ市会議の事前準備打合せなど
6月26日	フォン川訪問
6月27日	VIB銀行手続き、工芸品製作の村の視察など
6月28日	フエ市経済部および人民委員会との会議、日本再入国のためのPCR検査
6月29日	農家メンバーのタン氏宅訪問、PCR検査結果受領、打合せなど



TOKYO



東京本部の活動 ・国内事業の報告

東京本部の活動は、資金調達、支援者管理、広報、海外事業支援、総務・管理、会計など多岐にわたりますが、数名の職員とボランティアやインターンで進めました。2022年はコロナ禍の影響で対面の機会が少なくなりましたが、オンライン会議が常識となり、海外とのやり取りなど大きな助けとなりました。そのような状況のなかで苦労しているのがミャンマー事業です。

2021年2月のクーデター以降、現地情勢は混迷を深め、NGOをはじめ国際的な支援活動が制限されて日本人職員の赴任はおろか出張もできていません。また資金調達として外務省NGO連携無償資金協力(N連)へ申請したところ、ラカイン州の治安悪化に伴うNGO活動の全面禁止が当局より通達されたこともあり、N連は不採択となりました。その他国内でさまざまな助成金申請を進めましたが、ミャンマーの活動で採択を受けることはありませんでした。助成財団申請とは逆に、自己資金で5月に再開したBook & Toyミニライブラリーや、6月に再開した女性のための裁縫教室の活動を通じて、市民や企業から多くのご寄付が集まりました。10月半ばには裁縫教室継続のためのクラウドファンディングを実施し、団体への直接の寄付も合わせると250万円以上のご支援が集まり裁縫訓練を継続することができました。

ベトナムの活動では、昨年に引き続きオンラインツアーを実施しながら、6月にコロナ禍を経て3年ぶりに出張が可能と

なり、ベトナム現地でのNGO登録更新手続きを進めました。2022年度の資金調達状況は、クラウドファンディングや募金キャンペーンのほかに遺贈寄付が数件と高額寄付があり、受取寄付金の年間総額は予算を上回ることができました。

1月に開催された「脱炭素チャレンジカップ」で、BAJの古着リサイクルプログラム「フルクル」が優秀賞に選ばれました。フルクルによる古着回収量は、SDGsの盛り上がりを受けて2021年、2022年と回収量を更新することができました。また2年ぶりに開催された大阪マラソンの寄付先団体として、BAJは6年ぶりに選出され、2023年2月にはチャリティランナーとして出走する2名からクラウドファンディングにもご協力いただきました。5月以降、学生インターンやボランティアさんの力を借りながら、1~2か月に1度のペースでオンライン形式のイベントを開催し、活動の情報発信に努めました。

東京事務所では2022年に引き続き、2023年もリモートワークと出勤のシフトを組んだ勤務体系を維持継続しています。また2022年後半はコロナ禍の緩和にともない対面式の活動を増やし、10月はグローバルフェスタへの出展、11月にはBAJカフェの復活、12月には活動報告会を開催しました。対面による実施は2年ぶりとなりました。



1 主な事業と資金

会員の団体・個人ともに減少傾向にありますが、随時おこなう募金や寄付は増加傾向にあり、また毎月定額を寄付するサポーター制度もわずかですが増えています。東京事務所の事業である古着回収事業フルクルは、開始から10年以上を経過して徐々に拡大し、2022年は過去最高額を集めました。またクラウドファンディングや遺贈寄付、高額寄付、さらに個人による寄付は年間で1,000万円を越える額となりました。活動資金にご協力いただいた団体や組織は以下の通り。

	機関・団体名
ミャンマー	国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)、花王、花王ハートポケット倶楽部、三菱商事、フクダ・アンド・パートナーズ
ベトナム	TOYO TIREグループ環境保護基金、輝けアジアの子ども基金、キャノン
一般	<p>法人会員: 大木組、ケア・センターやわらぎ、国際航業、ダイナックス、日光物産、ピロタス、日本開発サービス、テクナレッジ・ジャパン、国際ビジネスコンサルティング事業協同組合、宮館産業、トリコ</p> <p>法人寄付、団体寄付: 大木組、立教大学コミュニティ福祉学部、G&Sフィールド合同会社、Omni360、ドリーヴス外国法事務弁護士事務所、みなと自動車工業、ヤフー、トリコ、イージーエスライン、セキュリアル、ピロタス、ロイヤリティマーケティング、宮館産業、熊谷組、TOYO TIRE 環境保護基金、日光物産、みなと自動車工業、</p>

*個人寄付は個人情報のため非表示としました。

1. 助成金・補助金、委託金、会費・寄付による事業資金

① ミャンマー事業

ミャンマー支援の問い合わせがあるものの国内状況から、新規事業に応じることは難しく、さらに助成財団に対しミャンマー事業の申請はことごとく不採択となりました。そこで小規模の目立たない事業を検討し、Book & Toyミニライブラリー事業および裁縫教室を再開し、資金調達としてクラウドファンディング、キャンペーンで、目標の250万円を上回る寄付を集めることができました。

国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) による「支援ニーズ即応事業」「車両機械類ワークショップ運営」は1,695,018,030MMK +65,561.04USDの事業費でした。Book & Toyミニライブラリー事業では、花王、花王ハートポケット倶楽部、三菱商事、フクダ・アンド・パートナーズの各社の寄付と自己資金により750,000円の事業費でした。

② ベトナム事業

4月にフエは大雨に見舞われ収穫量が減り、直売所の売上げに影響があったもののオンライン注文や宅配などの工夫で売上げ伸ばす努力をしました。6月は現地の英語教育機関 (AMAセンター) の農家訪問受け入れ、また出張していた事務局長がBAJの活動を紹介しました。

子どもの教育支援や環境教育事業については「輝けアジアの子ども基金」から912,000円を充て、コロナ禍に対応した事業体制構築事業にTOYO TIRE環境保護基金からの1,000,000円を充てました。なお海外事業訪問の際は会員になることを条件としています。

③ 東京事業

東京事業の柱となったフルクルのほか、「輝けアジアの子ども基金」「BAJまるごと支援」「夏・冬募金キャンペーン」を継続し、資金調達に努めました。とくにコロナ関連の規制緩和により、フルクル事業では集合店舗で回収イベントが再開されて最高額を更新しました。

年会費の個人は1万円、団体は3万円を維持し、機関誌「BAJ通信」を年4回発信、メルマガやFacebook、Instagram、TwitterなどSNS上に随時投稿して発信し、支援者拡大に努めました。

2. 会費と寄付

2022年のBAJ事業資金調達の内訳は、会費・寄付約15%、助成金・補助金約85%でした。

会員数は個人72名、団体11社で会費収入は960,000円、寄付金額は12,754,870円となり、2021年を800万円ほど上回りました。遺贈寄付やクラウドファンディングなどが要因でした。とくにクラウドファンディングでは活動報告やライブ配信を頻繁におこなって拡散に努めました。

2022年の各寄付金額の内訳は以下の通り。

	BAJまるごとサポーター	BAJ寄付	ミャンマー	ベトナム		合計
				アジ子	その他	
1月	131,000	75,000	2	48,000	0	254,002
2月	143,000	850,000	3	78,000	5,000	1,076,003
3月	132,000	337,777	522	120,000	0	590,299
4月	144,000	1,061,000	34,600	46,000	294,406	1,580,006
5月	137,000	132,000	1	152,000	0	421,001
6月	137,000	70,000	4	144,000	10,000	361,004
7月	132,000	40,000	245,107	96,000	0	513,107
8月	153,000	271,000	284	102,000	2,000,000	2,526,284
9月	142,000	67,000	146	72,000	0	281,146
10月	130,000	130,060	1,513,951	48,000	0	1,822,011
11月	130,000	106,158	5,002	54,000	0	295,160
12月	129,000	1,704,000	1,129,847	72,000	0	3,034,847
合計	1,640,000	4,843,995	2,929,469	1,032,000	2,309,406	12,754,870

(単位:円)

2 東京事業

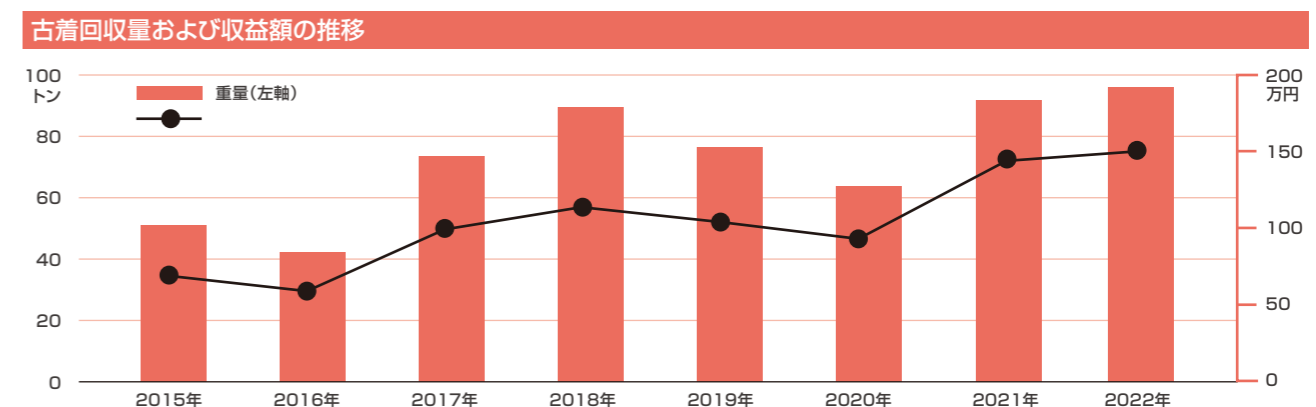
1. 古着回収事業フルクル

2011年に開始したフルクルは順調に拡大し、とくに全国の社会福祉協議会へのチラシ配布により地方からの寄贈が増え、また最近のSDGsの拡散もあってこの数年の増加に拍車をかけています。さらに集合店舗による古着回収イベントも増えました。

2022年の年間回収実績は以下の通り。

	箱数	重量(kg)	金額(円)
計	10,292	94,522	1,551,962

経年の古着回収量と換金額の経年推移は以下のグラフの通り。



2.古着回収イベント

フルクルは、個人、グループや職場、企業などで参加していただいておりますが、イベント企画事務所が集合店舗などに働きかけて開催する事例が増え、地方での開催も増えていきます。

No.	期間	開催場所	イベント名	箱数
1	2月25日～27日	グランデュオ立川	エコキャンペーン(衣料品の下取り)	73
2	3月1日～3月31日	manolbaイオンモール熱田店	リサイクル キャンペーン(衣類の下取り)	6
3	3月18日～27日	オリビア店舗(愛知・岐阜)	下取りキャンペーン(衣料品の下取り)	29
4	5月13日～22日	ファボーレ富山	リサイクルキャンペーン(衣料品の下取り)	148
5	6月4日・5日	大船ルミネウイング	下取り&買い替えキャンペーン	122
6	6月26日	本厚木ミロード	下取り&買い替えキャンペーン	12
7	7月1日～7月2日	ビブレ明石	衣料品回収キャンペーン	34
8	9月2日～4日	グランデュオ立川	エコキャンペーン(衣料品の下取り)	72
9	9月14日～10月12日	京王百貨店聖跡桜丘・ミ・デューショップ	ミ・デューお引取りキャンペーン	1
10	9月23日～30日	ならファミリー	らくだカード会員 古着回収キャンペーン	37
11	9月29日～10月12日	イトミヤ、ピンクダイヤモンド	下取り&買い替えキャンペーン	143
12	10月1日～10日	オリビアPLAISJR核店舗	下取りキャンペーン(衣料品の下取り)	29
13	10月7日～16日	ファボーレ富山	リサイクルキャンペーン(衣料品の下取り)	710
14	10月8日・9日	大船ルミネウイング	洋服下取り&買い替えキャンペーン	129
15	10月23日	御影クラッセ	古着でキャッシュバック	36
16	10月29日～30日	横浜駅ジョイナス	コート下取り2DAYS	142
17	11月3日	ジョイナステラス二俣川	コート下取りキャンペーン	43
18	11月5日	相鉄ライフ三ツ境	コート下取りキャンペーン	35
19	11月16日～22日	丸田百貨店	ファッション&コスメ下取りキャンペーン	42



3 広報事業

1.オンラインの活用

①スタディーツアー

コロナ禍や国の状況で2022年も活動現地スタディーツアーは実施できませんでしたが、オンラインによる開催を工夫し、機材などをそろえて右に掲載したツアーを実施しました。なおミャンマーについては、あらかじめ現地事務所内の様子を撮影した映像のみです。

	参加者	開催場所
2月26日	学習院女子大学ゼミ生徒(主催:PIT)	BAJベトナムフエの活動直売所や農家グループと農家との交流・クイズなど
11月19日	一般	現場の声を届けたい!バーチャルツアー BAJミャンマー・ヤンゴンとマウンドー各事務所

②講演や講義、会議など

BAJ主催や依頼を受けておこなった講演や講義はオンライン開催が増えています。遠隔地からの参加も可能となり広がります。

*印は対面による実施。

	広報先	内容	担当
2月23日	札幌市役所市民講座	BAJカフェ出張版	新石
2月25日	国士舘大学ビルマ語科	BAJのミャンマー活動講演	新石
3月18日	愛知教育大学ゼミ生徒*	ベトナムに関するワークショップ	新石
4月1日	BAJ x どえりゃあWings	フエの小中学校と名古屋の中高生たちとの交流授業	新石、他
4月8日	BAJ x どえりゃあWings	同上	新石
4月18日	BAJ x どえりゃあWings	同上	新石
9月24日	ミャンマー友好協会	BAJミャンマーの現状と展望	新石
9月29日	兵庫県伊丹市民講座	フルクルとBAJの活動紹介	新石
10月14日	青山学院大学シビックセンター	ミャンマーラカイン州の活動	新石
11月16日	高知商業高校生徒*	BAJ団体紹介・活動紹介	新石
11月26日	ミャンマー祭り/「エールフォーミャンマー」参加者*	BAJのミャンマー活動講演	新石
12月10日	BAJ支援者、関係者など*	ミャンマーマウンドー事業の活動報告会	相葉
12月17日	芝浦工大柏中学高校生徒*	BAJベトナムの活動の変遷	新石

③BAJカフェやボランティア説明会

対面による会合は中止していますが、希望があれば随時個別に応じました。10月には2年ぶりに開催されたグローバルフェスタに出展し、11月にBAJカフェを対面で開催しました。

毎週2～3名のボランティアの力を借りてオンラインや対面で東京事務所のさまざまな作業を手伝っていただきました。2022年のボランティア参加者は延べ106名でした。

	タイトル	担当	参加者	場所
5月7日	BAJカフェ出張版①国際協力フォーラム NGO職員と国際協力について考えてみよう	新石、岡崎、岡田、加藤	6名	オンライン
7月30日	BAJカフェ出張版②国際協力フォーラム NGO職員と国際協力について考えてみよう	新石、岡崎、加藤	9名	オンライン
9月3日	BAJカフェ出張版③国際協力フォーラム テーマ:ミャンマー女性支援	新石、岡崎、加藤、川名、渥美、岡	7名	オンライン
10月8日	BAJカフェ出張版④今からはじめる国際協力 じぶんに向けた支援のカタチ	新石、岡崎、加藤	5名	オンライン
11月12日	BAJカフェ	新石、鶴田	5名	東京事務所

④二枚目の名刺サポートプロジェクトによる活動

社会人ボランティアによるNPO「二枚目の名刺」が主催するサポートプロジェクトをBAJが受け入れ、3か月間にわたり団体広報、支援者拡大の企画や、営業資料作成と営業展開など、さまざまな取組みを検討して実行しました。2022年1月に報告会をおこない終了しました。

⑤SNSを通じた活動情報の発信

ホームページおよびメールマガジンは基本として迅速な情報掲載を心掛けました。さらにメールマガジンとお知らせマガジンを毎月各1回配信し、さらに写真掲載ができるFacebook(フォロワー1,886人)、BAJ設立30周年に向けたInstagram(フォロワー153人)や、Twitter(フォロワー1,636人)を継続して投稿しました。

⑥SNSを通じた活動情報の発信

BAJの活動現場と支援者をつなぐ機関誌「BAJ通信」142号～145号を毎回600～700部を発行し、2021年度年次報告書を総会終了後に発行しました。

2.ネットワークと委員会

行政機関、国際機関、NGO・NPOの連合体が実施する会合に積極的に参加し、情報共有や交流、共同事業などを進めました。とくに2021年8月からは、ミャンマーで活動する日本NGOのネットワーク(JNN)で1年間幹事団体を勤めました。

2022年にBAJが参加したネットワーク活動や会合は右の通り。

団体・グループ名	内容
J-FUN	UNHCRと連携するNGO団体による交流・情報共有
NGO-外務省定期協議会	外務省に対する提案や意見交換の場
ケア・センターやわらぎ	高齢者対象の福祉事業を推進
NGO-JICA協議会	JICAとNGOの意見交換と情報共有
JANIC/国際協力NGOセンター	国際協力NGOの連携団体、ベトナムNGO研究会など
バイオメディカルサイエンス研究会	ベトナムでの衛生事業について情報共有
SDGs市民社会ネットワーク	国連SDGs事業に協力して情報提供や提言活動など
ICVA(人道支援の提言団体)	UNCCCRと協力して人道支援を実施するNGOの連携団体
適正技術フォーラム	持続可能な世界を目指し、適正技術の普及や提言活動
日光物産	中古服の寄付活動フルクルを通してBAJ事業の支援
ドットジェイビー	インターン希望大学生の受入れ
二枚目の名刺	NPOと企業の社会人を結び、NPOの課題解決をはかる
JNN(日本NGOネットワーク)	ミャンマーで活動するNGOの集まり、情報共有など
どえりゃあWings	ベトナムの子どもたちとのオンライン交流授業準備



4 総務・管理

2022年も引続き、勤務時間の短縮やリモートワークの勤務体系を継続し、引き続き「雇用調整助成金」の申請をおこないました。職員の給与支給や保険関連の管理業務を進め、その他法人の維持管理に必要な業務を進めました。またBAJ会員や支援者の管理をおこないました。

1.人事

①日本人職員の異動

異動日	氏名	新	旧
2022年2月1日	今村 恭介	退職	シニア・エデュケーションオフィサー、兼ミャンマー国代表代行/ヤンゴン事務所
2022年11月30日	岡崎 章	退職	国内事業担当/東京事務所(非常勤)
2023年1月1日	大野 勝弘	シニア・スタッフオフィサー/東京事務所、兼プログラムマネジャー代行/マウンドー事務所(非常勤)	シニア・スタッフオフィサー/東京事務所(非常勤)
2023年1月20日	相葉 翔太	退職	プログラムマネジャー/マウンドー事務所

②インターンの受入れ

「ドットジェイビー」から、2022年もインターン4名の大学生を受け入れ、個別に目標を決め、最終日に報告会を開催しました。

	氏名	期間	内容
1	岡田 穂花	2月9日～5月7日	オンライン・イベントの企画運営
2	加藤 結衣	2月9日～5月7日	オンライン・イベントの企画運営
3	川名 浩介	8月1日～9月30日	イベント補助、ツアー企画など
4	瀧美 夢羽	8月1日～9月30日	イベント補助、ベトナム調査など

③職員の研修や会議参加

参加した研修、会合、イベントは以下の通り

	主催	内容	担当	場所
1月25日	日本ミャンマー友好協会	ミャンマーの現状について	大野	オンライン
4月27日	ベトナム研究会調査報告(JANIC、かめのり財団)	BAJベトナムの人材育成(講演、シンポジウム登壇)	新石	オンライン
10月22日	フクダ・アンド・パートナーズ	設立20周年パーティーに出展	新石	ホテルニューオータニ
10月27日	日本ミャンマー友好協会	ミャンマー経済セミナー	新石	オンライン
11月7日	宇都宮大学	インターンシッププログラム説明会(ベトナム紹介)	新石	オンライン
11月8日	外務省JNN意見交換会	団体登録法への対応策	新石	外務省
11月9日	大阪マラソン	チャリティランナー紹介説明会	新石	オンライン
11月16日	JANIC	プレスリリースオンライン研修	加藤	オンライン
12月13日	外務省JNN緊急会議	団体登録法への対応策	新石	オンライン

5 海外事業支援

出張や派遣が困難ななかオンラインによる情報共有を頻繁に実施し、とくにクーデター以降は銀行からの引出し制限、移動の制限など事業を計画通りに進めることができず、活動可能な事業のみを継続しました。

1.出張と専門家派遣

コロナ禍の収まったベトナムに2年ぶりの出張をおこないました。ミャンマーへの専門家派遣はできませんでした。

日程	出張者	出張先/内容
6月23日～30日	新石	ベトナム/フエ市人民委員会との会議など

2.ミャンマー事業支援

①エーヤワデイデルタ学校マングローブ防風林植林事業 資金：花王ハートポケット倶楽部/花王(株)

2020年の植林事業がコロナ禍で2021年に繰り延し、さらにクーデターで2022年に再延期が見通しが立たず、7月に中止を決めました。資金拠出先と相談し、残金について「Book & Toyミニライブラリー事業」へ転用することとし、報告書を提出して終了しました。

②裁縫訓練を通じた女性の能力開発事業 資金：寄付・自己資金

事業開始に伴いクラウドファンディング、募金キャンペーンなど必要な資金調達を進めました。

3.ベトナム事業支援

環境教育活動やオンラインツアー、アジ子支援者に対するサクスレターのアイデアなど、フエの活動内容に関する企画・提案について、ベトナム事業サポートチームメンバーと学生インターンとともに進めました。詳細はベトナム事業報告に掲載しました。

